

ファイヤープログラム

(キャンプファイヤー・キャンドルファイヤー)

1 意義と役割

- ・真っ暗な闇と炎の対照。炎を囲んでの友との語り、力いっぱい歌い踊る躍動感、そしてしばし沈黙して自己を振り返る。ファイヤープログラムは、感性豊かな子どもたちの心を開き、共に感動を味わう絶好の活動です。
- ・屋外で大きな火を囲んで、ダイナミックな活動が期待できるキャンプファイヤー、屋内で、静かに心に染み入る幻想的なキャンドルファイヤー。それぞれ一長一短があります。活動の目的や、活動参加者の構成に応じて組み入れてください。

2 プログラムの流れ

本来、定型といわれるものではありませんが、意義をふまえ単なるお祭り騒ぎにならないように以下のような三部構成で行うのが一般的です。

- 第1部「点火のセレモニー」(厳粛な雰囲気の中で)
- 第2部「交流のつどい」(歌唱、スタンツ、ダンスなどのレクリエーション)
- 第3部「消火(分火)のセレモニー」(再び厳粛な雰囲気で)

3 運営のポイント

- ・静→動→静という雰囲気のカーブを意識する。
- ・日常生活とは異なる雰囲気を醸し出す。
- ・それぞれの団体の性質を考えて独自のプログラムを考える。
(各団体の団体指導者、活動参加者による企画・運営)

4 事前の準備

- ・プログラムの検討、役割分担
- ・シナリオ作成(歌やスタンツの練習、準備)
- ・資材の準備(貸出し)、場所の選定
- ・安全確保の確認

5 活動終了後の流れ

- ・参加者の誘導
- ・消火と片付け
- ・用具の返却

キャンプファイヤー

1 実施時期

4月から10月まで（実施不可：11月から3月まで）

2 準備物

○本所が用意できる物

表1

◇無料で貸出し可

- ①衣装(火の神、火の巫女) ②神の杖 ③ライター ④新聞紙(着火用)
⑤バケツ(消火用) ⑥スコップ

- ・①～④は事務室でお渡します。⑤～⑥は、薪等と一緒にリアカーの乗せて用意します。
- ・活動場所の浜には電源がありませんので、アンプ等を利用する場合は電池等の電源を用意してください。電源延長コードは危険なため使用できません。
- ・アンプ(CDデッキ)は貸出可能ですが、乾電池(単1：8つ)を団体で用意してください。

◇有料で提供できる物

- ⑧薪(1本 210円) ⑨焚きつけ少々(薪とセットで提供) ⑩灯油(1ℓ 100円)

- ・⑧～⑨はリアカーに乗せて用意します。⑩は事務室でお渡します。
- ・推奨の薪本数は12本、灯油は1ℓです。

○本所で用意できない物

表2

点火、分火用のトーチ、投光器、懐中電灯

3 事前準備

(1) 実施判断

- ・雨天時、強風時は活動不可。最終的な実施判断は、活動直前(夕食後)に事務室で行います。あらかじめ準備をしていますが、中止判断となる場合があります。

(2) 場所の選定

- ・活動場所は、青少年の家前の石津浜です。特に指定の場所はありませんので各団体で決めてください。火の粉が飛ぶ場合がありますので、風があるときには風下にはいない方が安全です。また、砂地の方が後片付け等をしやすいです。

(3) 資材の運搬と薪の準備

- ・リヤカーに積んだ状態で資材を提供します。自転車置き場から各団体で運び、準備をしてください。明るいうちに準備をする方が安全です。

4 後片付けについて

- ・表1 ①～③及び⑩の物品は、事務室に返却してください。
- ・表1 ⑤～⑥の物品は、リヤカーごと自転車置き場に返却してください。
- ・薪は完全に燃やしきり、灰だけにし、水を掛け完全に消火してください。その後、穴を掘り埋めてください。

※薪が完全に燃え尽きるまでは、相当の時間(2～3時間程度)を要しますが、最後まで責任をもって現場での監視をお願いします。

- ・後片付け終了後は、所員にお知らせください。

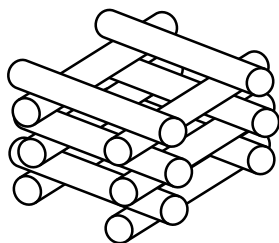
5 翌朝の現場確認について

翌朝にも、必ず現場を確認してください。忘れ物、後始末の様子を再度確認してください。

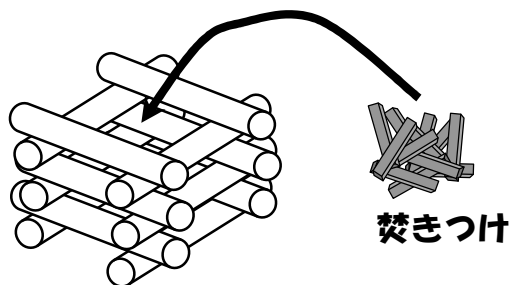
6 その他

- ・海岸は漁港管理事務所から使用許可をとり、使用しています。「来たときよりも美しく」を合い言葉に、気持ちよく活動をお願いします。
- ・活動後は大変暗くなります。落とし物や忘れ物、怪我のないよう注意してください。

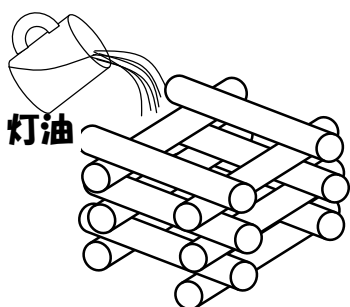
キャンプファイヤーの手順と注意



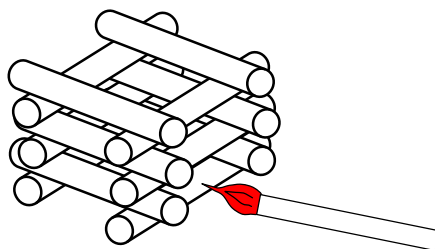
① 12本の薪を井形に組みます。



② こっばを下の方に置きます。



③ 灯油をまんべんなく、かけます。



④ 下から火をつけます。

◇ ファイヤーキーパー（火の係）を必ず決めましょう。

火をつけると、灯油の勢いでバァーっと燃えますが、放置すると表面だけ燃えて終わってしまいます。

◇ 風向きを考えて、配置を決めましょう。

火の粉も多少飛びます。

◇ 薪は、最後まで燃やしきってください。使用した薪の返却はできません。

キャンプファイヤーが終了しても薪が燃え切るまでは、必ず団体指導者1人以上は浜に残り、消火の見届けをしてください。

◇ 灰はスコップで穴を掘って埋めてください。

状況にもよりますが、約2時間ほどで燃えきります。

◇ 最後に水をたっぷりかけてください。

海岸は、許可を得て、使用しています。
”来たときよりも美しく”という気持ちを忘れないでください。